

鈴鹿市民の  
**コミバスをよくする会**ニュース  
 (第20号・2016年9月発行)

発行:(略称)コミバスをよくする会  
 事務局(仮):辻井良和 方  
 〒510-0234 鈴鹿市江島本町31-36  
 電話 059-386-0529 FAX 059-386-0646

# 養老町「オンデマンドバス」 見学会を行います。

## 10月28日(金)10時出発

集合：鈴鹿市社会福祉センター  
 玄関前午前9時50分  
 帰着予定：午後4時30分頃



募集人員：20名、マイクロバスで行きます。  
 参加費：無料、ただし昼食は各自でお願いします。  
 昼食：養老公園で昼食休憩。焼きそば、うどんなど  
 軽食のお店で各自とってください。弁当持参OK。  
 見学：13時から14時半、養老町役場で行います。



10:00 社協出発  
 11:40～昼食休憩 養老公園  
 うどん、焼きそばなど軽食8店舗  
 ・ ・ 各自で。弁当持参OK。  
 13:00～養老町役場 見学会  
 14:30～帰路、大山田PA休憩  
 16:30 鈴鹿着

■お申し込みは、下記の申し込み欄に記入して、  
 切らずにFAXでお申し込みください。 FAX 059-386-0646  
 または、電話でお申し込み下さい。

辻井 良和 059-386-0529 橋詰 圭一 090-6577-3617

養老町オンデマンドバス見学会に申し込みます。

お名前	(ふりがな )
住所	
電話番号	
ファクス番号	



## 地域交通を考えるうえで参考になる視点

月刊誌「住民と自治」9月号が、「地域交通と交通弱者」を特集している。そのなかで、三重県地域連携部交通政策課長・富永健太郎氏の小論が光っています。

「地域交通における県の果たすべき役割～“新しい豊かさ”と住民生活における交通手段の確保～」と題する小論のなかでも、まとめにあたる最後の部分が、これからの地域公共交通を考える上で参考になるので引用・紹介します。(橋詰)

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

こうした事業を進める上でやはり課題は予算の確保です。公共交通を重視しようとする政策は、総論では共感を得られても、財政議論となると、プライオリティーが必ずしも高いとはいえない状況だからです。本来、公共交通、とりわけ地域交通は、自家用車を運転できない高齢者や子ども・若者など自由な移動を確保するための公共財に準ずる社会資本と位置づけられる必要があります。

たとえば、高齢者の外出や歩行を促し健康面でプラスになれば、医療費や介護費の削減にもつながり、自家用車から公共交通機関に転移することで、道路の渋滞が減り、経済的損失を抑えつつ環境にも優しいという効果が見込まれます。また、地域の鉄道やバスを中心とした地域公共交通のネットワーク化によりコンパクトシティ化を進め、公共交通沿線にさまざまな施設を集約させれば、公共交通の利用者も増えます。このように交通に

関する施策の推進は、まちづくりや福祉、健康、教育、子育て、環境など他分野を連携させることで、総合的な交通体系を構築することが重要と考えています。

いま、「安心」、「共生」、「優しさ」の点から県が交通政策に携わる責任がとて大きくなっています。いつまでも住み続けられる地域であるために、県、市町、事業者、県民などすべての主体が地域の鉄道やバスを中心とした生活交通の必要性と重要性を相互に情報共有しながら理解し、それぞれが地域における公共交通の維持・確保に向けた役割を自覚し、取り組んでいきたいと思えます。(月刊誌「住民と自治」9月号より)

### スーパー前アンケート活動 どこでも大きな期待の声



7月24日(日)の午前中、マックスバリュ長太の浦店様の店頭をお借りして、アンケート活動を行いました。2時間半で約80名の方に記入していただきました。「いまはクルマに乗ってるけど、歳をとって乗れなくなったらどこにも行けん。早く走らせて」の声が、多く聞かれます。

あなたの声を  
聞かせてください。



コミバスについて願っていること、自分にとって必要な理由、利用したい公共施設は何か、自分の利用方法など、あなたの声をお寄せください。

原稿は600字以内。「紙上匿名」でも結構ですが、原稿には本名と住所、電話番号を書いてください。写真もありましたらお願いします。

あなたの周りで、2枚でも3枚でも「アンケート」を広げて下さい。ご連絡いただければお届けします。1万枚を目標にすすめています。